

水草等対策技術開発支援事業実績

採択年度	平成 29、30、31 令和 2 年度	事業者名	株式会社 日吉
補助事業名	平成 29 年度 短期間堆肥化法の開発および繁茂抑制に関する技術開発 平成 30 年度 短期間肥料化法の開発および繁茂抑制に関する技術開発 平成 31 年度 高肥効肥料の開発および繁茂抑制に関する技術開発 令和 2 年度 水草の繁茂抑制に関する技術開発		
補助事業結果概要	<p>水草の内沈水植物については、従来の約3年堆肥化法を短縮すべく平成29年度は技術開発を行ったが、大園先生（京大）ら発酵させていない水草の肥効が良いという論文に気づき、平成30年度は乾燥させただけの水草を用いて、非常に肥効が良いという結果を確認した。また、高肥効化については、水草を亜臨界分解したものをを用いて肥効が向上したことを確認した。</p> <p>また、侵略的外来水生植物については、オオバナミズキンバイのバスタ液剤による枯殺方法の開発を行った。バスタ液剤含侵の爪楊枝を使い、直下水域への農薬の流出を抑え、標的の水草を枯殺することが出来る系の開発を行った。</p> <p>バスタ液剤含浸木質楊枝による新浜ビオトープ現地効果確認実験、独立行政法人水資源機構が管理する新浜ビオトープの池を使わせて頂いて、オオバナミズキンバイの駆除効果を確認するための現地実験を行い、予想通り枯殺に成功し、水中への除草剤の流出は見られなかった。</p> <p>酸素ファイターという装置で作った高濃度酸素水を使った湖底のヘドロ処理を行った。今回の事業では、春季から夏季の好気性細菌の活動の活発な時期に諸般の事情により実験が出来なかったため、十分なデータを収集出来たわけではないが、高濃度酸素水を使ったヘドロの処理はその可能性を示唆せた。</p>		
本年度（令和4年度）の 状況 ・技術開発等の状況を含む	特に行っていない。		
備考			